IS01-1　**ワクチンの果たしてきた役割とワクチン研究開発展望**

○上田 徳仁 [1]
[1]第一三共

ワクチンは、感染症からヒトを守るためにこれまで大きな役割を果たしてきた。ワクチンが、感染症の発生抑制や重症化予防に貢献しているが、その効果は疫学情報の収集とその分析がなければ認識することが困難である。また、新型インフルエンザや新興・再興感染症に対してもワクチンは有効な手段であり、これらのワクチンは国の危機管理の観点からも重要である。

我が国は予防接種の副反応による健康被害の問題を背景に予防接種行政に慎重な対応が求められてきた経緯から、研究開発が進まずいわゆるワクチンギャップを招いてきた。2014年、厚生労働省は、「予防接種に関する基本的な計画」を発表し、予防接種に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として、今後の予防接種に関する中長期的なビジョンを示した。ワクチンで防げる疾病はワクチンで予防するという基本理念のもと、科学的根拠に基づいて予防接種施策が推進されることが求められている。基本計画のもと、すでに製造販売承認を得ているワクチンの定期接種の位置づけについて評価・検討が推進されているとともに、医療ニーズ及び疾病負荷等を踏まえた感染症対策に必要な新たなワクチンの開発が期待されている。開発が求められているワクチンの実用化には革新的な技術と大きな投資が必要であり、産官学の連携の下、日本が世界に先駆け新規ワクチンを開発することが期待される。